

# 小規模事業者のIT利活用支援事例② (鹿沼商工会議所)

鹿沼商工会議所（栃木県鹿沼市、以下「商工会議所」）は、自動販売機オペレーターである株式会社オートスナック（栃木県鹿沼市、以下「オートスナック社」）とオフィスのPCシステムサポートを行っているPNCネットワークサポート株式会社（栃木県宇都宮市、以下「PNC社」）の、飲料を買うとクーポンがもらえる自動販売機「フリーポン」<sup>（注：末尾参照）</sup>の共同開発を支援し、広告には地域の商店や飲食店にも参加を呼びかけ、地域活性化にも貢献している。

その後、「フリーポン」は、更なる支援の下でクラウドシステムを活用した「IoTフリーポン」に進化。この取組みが、平成29年に経済産業省の「攻めのIT経営中小企業百選」に選定されている。

以下に「IoTフリーポン」開発にかかる鹿沼商工会議所の支援から一連の取組みについて紹介する。

## ○株式会社 オートスナックの概要

設立は、昭和48年11月。大手飲料メーカーの特約代理店として鹿沼市内を中心に公共施設等の飲料自動販売機の管理やオペレーション業務を主事業とし、企業や病院の売店にも飲料を納品している。従業員5名。資本金は1,000万円。

## ○「IoTフリーポン」開発への支援

平成23年から投入した「フリーポン」は、商工会議所の支援や地域事業者の協力もあり順調に設置台数が増加したが、一台一台現場を回り、USBを接続してデータの更新を行わなければならない負担が大きくなってきた。そこで、オートスナック社は、「フリーポン」に通信機能を付加してクラウドシステムを活用することにより、インターネットで本社から一括管理ができる「IoTフリーポン」の開発を商工会議所に相談した。



IoTフリーポン

商工会議所では、この相談を受けて専門家（ITコーディネータ、以下「ITC」※）を派遣し、IoT化のための開発支援と開発費手当てのための「ものづくり補助金」申請支援を行うことを提案。派遣したITCの野田和巳氏の支援によって「ものづくり補助金」の獲得、IoT化に成功。「IoTフリーポン」として平成28年春から投入された。

※ITコーディネータ（ITC）：2001年に通商産業省（当時）による国家施策の一環として設けられた経済産業省推進資格。経営者の立場に立ってITを経営の力にするために助言・支援を行う専門家。毎年資格更新が義務付けられており資格保有者は約6,200名。（ITコーディネータ協会：<https://www.itc.or.jp/>）

## ○「フリーポン」構想段階からの継続支援

商工会議所は、「フリーポン」の事業構想段階から、その実現に向けた支援を継続して行ってきた。次に当初からの支援について、辿っていくこととする。

### (1) PNC社の構想とオートスナック社の事業の結びつけ

平成22年、商工会議所は、大手自販機オペレーターの進出で今後の事業展開に不安を抱えていたオートスナック社に、自動販売機の飲料缶にQRコードを貼付し、地元企業の広告や地域のPRを行うという提案を行った。当時、商工会議所のシステム管理業者であったPNC社からの発案であった。



鹿沼商工会議所総務課 課長 君島敏之氏（左）と  
㈱オートスナック 代表取締役 三品浩文氏（右）

オートスナック社は、この提案はビジネスチャンスであると同時に地域振興のチャンスであると感じ、事業化に取り組むこととしたが、自動販売機の故障に繋がりがねないとの大手飲料メーカーの指摘を受け、事業化は暗礁に乗り上げた。そこで、自動販売機本体に薄型のパソコンや小型プリンターを取付けることにより、飲料購入時に地域情報が掲載されたクーポンを発券することが出来るのでは、と思いつき、改めて商工会議所やPNC社に相談した。

### (2) 「フリーポン」開発支援

相談を受けた商工会議所では、自動販売機にパソコンやプリンターを取付けできる板金業者と電気配線業者を会員事業者から探し、オートスナック社に紹介した。これらの企業の協力により技術的な課題を解決し、「フリーポン」が完成した。



フリーポン1号機

### (3) 販路拡大支援（広告掲載事業者と新規設置場所の紹介）

次に、商工会議所は広告掲載事業者の紹介と「フリーポン」設置場所の紹介を行った。商工会議所会員事業者に「フリーポン」を利用した広告を勧め、イメージが湧かない事業者に対してタブレットで動画を見せ、その内容とメリットを説明した。また「フリーポン」の適切な新規設置場所についても、情報提供や書類作成の支援を行った。これにより、広告掲載事業者が集まり、「フリーポン」の設置も増えていった。

#### (4)「中小企業 IT 経営力大賞」応募支援

商工会議所は、「フリーポン」の先進性に着目して、オートスナック社に経済産業省の「中小企業 IT 経営力大賞」への応募を勧めた。IT コーディネータ協会から紹介された前述の ITC の野田氏の支援を受けて応募申請を行い、平成 26 年に「中小企業 IT 経営力大賞」の「IT 経営実践企業」に認定された。

### ○支援成果

一連の支援の成果として以下の点があげられる。

- ①構想段階から継続して支援することにより、将来に不安のあったオートスナック社の新たな事業展開を実現したこと。
- ②会員事業者を中心とした地元企業の広告により、地元企業の販路拡大に繋げるとともに、地域の PR にも役立ち、地域の活性化にも貢献していること。

### ○支援体制

一連の支援の全体コーディネートを支店が担当した。オートスナック社は「フリーポン」の運営管理や新規設置先開拓を行い、クーポンのコンテンツ作成とシステム管理を PNC 社が行った。

また、「IoT フリーポン」の開発では、商工会議所が派遣した専門家が「ものづくり補助金」申請支援やバックヤードシステム構築支援を行った。

なお、現在では ITC の野田氏が全体コーディネートを行い、商工会議所は側面支援のスタンスとなっている。

### ○支援のポイント

商工会議所は、事業者の状況や課題に真摯に向き合い、全体のコーディネートと会員事業者との橋渡しを図るなど地域に根ざす商工会議所としてできる支援を丁寧なきめ細かく実施してきたことが、今回の支援のポイントである。

(注) フリーポンとは (<http://www.freepon.co.jp/>)

自動販売機に広告動画が流れる液晶パネルとクーポン発行用の小型プリンターを取り付けて、飲料購入者に特典付きクーポンを発行する仕組みである。通信回線を通じてクラウドサーバーに接続する「IoT フリーポン」では、広告コンテンツの一括更新ができ、飲料の購入状況などのデータが効率的に把握できる。

# 鹿沼商工会議所の支援概要図

